



## 準優勝チーム Storms



選手・応援の皆さま本当に疲れ様でした。また、こんなにアダルトになっても熱くなれる大会を主催していただいた幹事会社のJERAの皆様ありがとうございました。

“Storms”は2022年大会から出場しておりますが、当初は初戦敗退で結果を残すことが出来ませんでした。思い返せばアウト1つ取るのもひと苦勞で、それから3年で準優勝できるチームになったことは本当に感慨深いです。年齢も会社も異なる仲間とソフトボールを通じて出会い、互いを讃え合うことで熱くなれた最高のシーズンでした。

初戦のうっかり紅忠兵衛戦では緊張のせいも、いつものバッティングが出来ず、必死に攻めるも“しっかり”と守られ、なかなか点が入りませんでした。ようやく6回で追加点に成功し、なんとか7-2で勝利することが出来ました。

次戦の三菱Red Diamonds戦では緊張もほぐれ、バッティングと守備がいつもの調子に戻り、先制点をあげ、そのまま7-1で勝利を収めました。

準決勝は2023年大会準決勝で敗れた住友ダッシュさんとのリベンジ戦でした。昨年の優勝チームでもあり、メンバー全員のレベルが高いことは周知の事実。先制点をあげるも、同点に追いつかれる展開。焦らず丁寧なプレーを心がけ、声援を絶やさないので確実に点を積み重ねることが出来ました。

今大会に参加出来なかった方からの応援や、大会の次の日に帰任するエース浜ちゃんとも少しでも長く戦いたいという想いを胸に勝ち切ることが出来ました。強力打線の住友ダッシュさんに昨年のリベンジを果たせたこと、試合終了後、“優勝してくださいね”と声をかけてもらったことで、更にチームの気が引き締まりました。住友ダッシュさんには試合中の怪我人救護に協力いただき、改めて素晴らしいチームだと感じました。

決勝戦はアストロズ戦。2シーズン前の練習試合では何度も大差で負けていたチームだけに決勝で戦えることに嬉しくもあり、絶対に勝つ想いで挑みました。惜しくも敗れて準優勝にはなりませんが、今大会を通じて我々の強さやチームワークの良さを、プレーや応援で証明し、Stormsは本当に最高のチームだと再認識しました。

今シーズンで監督、キャプテン、副キャプテンは交代となり、新Stormsとなりますが、来シーズンも明るく、楽しく、強く戦い続けます！

(Storms キャプテン 竹内宏輔)



## 3位チーム 住友ダッシュ



昨年は悲願の優勝を成し遂げ、今年は何としても連覇を、と意気込んで1月に始動した住友ダッシュ。企業単独チームであれば避けられない人事異動による戦力ダウンについても、一部主力の帰任はあったが昨年の優勝経験メンバーも大半が残留と最小限に収まり、チーム史上初の連覇を狙える最大のチャンスでもあった。大会に臨むにあたり、活動主旨である世代・部署を超えた懇親・チームビルディングの場である中にも、プレー中には厳しい叱咤の声も飛び交い、試合を重ねるごとにプレーの精度も上がっていき、例年になく順調な調整ができたとの自信を持って大会を迎えた。

さて大会当日、初戦(2回戦)の対JERA、初戦特有の緊張感からか、浮足立ったところをツツなく衝かれ先制を許してしまう。続く4回に打線が繋

がり大量得点を挙げ28-7で勝利。3回戦の対カネカでも勢いそのままに19-3で勝利。

そして迎えた準決勝のStorms戦、大会随一の強豪で、練習試合でも敗れているだけに、気合十分で臨むも、初回到3点を先制される。その後すぐに追いついたものの、手堅く得点を重ねられ、結果は4-7で敗北。

気持ちを切り替え臨んだCometsとの3位決定戦では、疲労で足が攣るメンバーがいながらもこのチームでの有終の美を飾るべく全員が奮闘。最後まで気持ちを切らさず9-0の完封勝利で終えることができた。昨年の優勝からは順位を下げ悔しさも残るものの、大会及びその準備を通じて得られたチーム内外の繋がりは何にも代えられず、素晴らしい大会となった。

最後に、練習試合・大会当日に対戦させて頂いた各チームの皆様、何かも前からご準備頂き当日も最後まで安全な運営を行って頂いた幹事会社JERAの皆様、大会ご関係者の皆様、誠に有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

(戦術C 卜部翔吾)

